

オリザ油化㈱、「トマト種子エキス」の肌の弾力維持で機能性表示食品届出受理

オリザ油化株式会社（愛知県一宮市）は、皮膚の細胞外マトリックス（ECM）生成サイクル促進作用を訴求した素材として「トマト種子エキス」を2018年に上市している。この度、トマト種子エキスの主たる有効成分としてリコペロサイドHを機能性関与成分として肌の弾力維持を有する研究レビューをまとめ、同成分を配合した機能性表示食品の届出が受理された（届出番号：H206）ことを発表した。

トマト果実に含まれる成分については多くの報告があったが、種子のみに含まれる成分についてはほとんど研究されていなかった。そこで、弊社と京都薬科大学で成分研究を行った結果、種子の主要成分としてサポニン化合物であるリコペロサイドHの単離・同定をし、この成分がトマト種子の主要成分であることを世界で初めて報告した。更に、トマト種子エキスおよびその含有成分がコラーゲンおよびエラスチンの産生量を有意に増加させることも世界で初めて明らかにした。また、ECMの生産サイクルに関連する遺伝子発現について評価したところ、トマト種子エキスおよびリコペロサイドがコラーゲンおよびエラスチンの産生にそれぞれ関与するsmadおよびfibulin遺伝子や、古くなったコラーゲンやエラスチンの分解物の取り込みにそれぞれ関与するendo180およびneuramindase-1遺伝子発現を有意に増加させることを見出した。これらの結果より、トマト種子エキスにはECMのサイクルを高めることにより、肌のコンディションを常に正常に保つ効果が期待できる（特許取得済：特許第7026181号）。

届出が受理された製品は「トマト種子エキス-P」を使用し、機能性関与成分のリコペロサイドHが1日あたり1mg配合されており、表示しようとする機能性として、「本品にはリコペロサイドHが含まれます。リコペロサイドHは、肌の弾力を維持し、肌の健康に役立つことが報告されています。」としている。

科学的根拠は、機能性関与成分である「リコペロサイドH」の経口摂取が肌の弾力維持に及ぼす影響についてシステマティックレビュー（SR）を行った結果である。SRに採用されたRCTの臨床論文によると、1日あたり1mgのリコペロサイドH摂取により、健康な日本成人男女の肌の弾力を維持し、肌の健康に役立つことが示されている（臨床試験の結果について特許出願中）。

同日、菊の花エキス-Pのルテオリンを機能性関与成分とした「花粉、ホコリ、ハウスダストなどによる目の不快感」を謳う機能性表示食品の届出も受理・公開されており、同社では11素材17ヘルスクレームの機能性表示食品対応素材が提供可能となった。今回の届出受理を機に、肌の弾力維持について訴求した機能性表示食品に興味ある潜在顧客への積極的な提案を行っていく予定である。